

第16回全国ほんもの体験フォーラム in 南信州

日 程

令和4(2022)年3月19日(土) 10:00~18:00

会 場

シルクホテル 飯田市錦町1-10 TEL0265-23-8383 <https://www.silkhotel.co.jp/>
(基調講演者、コーディネーター、パネリストのみ参加)

実施方法

YouTubeライブで配信いたしますが、クローズ配信となりますので、視聴希望者には接続URLを送信いたします。録画・録音はご遠慮ください。ウェビナー記録は、希望者に媒体(ブルーレイ等)でお分けします。(有料)全国ほんもの体験ネットワーク会員地区は各々で視聴希望者を集約してください。フォーラム事務局からお送りするYouTubeライブ接続URLは各地区事務局にのみお送りしますので、各地区において希望者にURLを送信するようお願いいたします。南信州地域他の視聴希望者には事務局よりYouTubeライブ接続URLを送信します。

参加方法

- ①申込方法 ・全国ほんもの体験ネットワーク会員は別紙申込書により期限内にお申し込みください。
・南信州地域他の視聴希望者は、観光公社ホームページ等で募集します。(https://www.mstb.jp)
・事前登録された方のみ視聴可能です。
- ②定 員 600名(全国ほんもの体験ネットワーク会員地区20名程度、南信州他200名程度)
(会員地区で20名を超える場合は事務局までご相談ください。)
- ③申込期限 令和4年3月4日(金)まで(必着)
- ④参加費用 無料
- ⑤質 疑 基調講演並びに課題別セッションの講師、パネリストに対する質疑は、事前の質問形式でいただき講師等にお伝えする形をとります。各セッションの中でご回答いただくことを基本に講師、コーディネーターが進行の中で采配します。質問は参加申込時にご提出いただけます。
- ⑥そ の 他 今回はYouTubeライブで配信いたしますが、コロナ禍第6波の収束状況によっては、パネリストの飯田市への来訪が不可能になることも予測されます。その場合には、パネリストは各在住地からご参加いただき、その際のオンラインミーティング配信アプリはZoomを使用することもありますのでご承知おきください。

問合せ先

観光地域づくり法人(株)南信州観光公社 TEL 0265-28-1747 FAX 0265-28-1748
〒395-0152 長野県飯田市育良町1-2-1 E-mail oyorite@mstb.jp 担当:地域振興事業部

—コロナ禍を超えて—
新しい地域観光の地平線を切り拓く



第16回 全国 オンラインウェビナー

ほんもの 体験フォーラム in 南信州

令和4(2022)年
3/19(土)
10:00~18:00

主催: 第16回全国ほんもの体験フォーラム in 南信州実行委員会
共催: 全国ほんもの体験ネットワーク、全国教育民泊協会
お問い合わせ

第16回全国ほんもの体験フォーラム in 南信州事務局
株式会社南信州観光公社 ☎0265-28-1747 <https://www.mstb.jp/>
令和3年度長野県地域発元気づくり支援金活用事業

タイムスケジュール

I 開会

10:00~

開会：(株)南信州観光公社 代表取締役 高橋 充
主催者代表：全国ほんもの体験ネットワーク 会長 藤澤安良
来賓(開催地代表)：飯田市長 佐藤 健

(敬称略)

II 基調講演

10:10~11:00

テーマ 『ポストコロナ時代、教育旅行はどう変わるか』

講師：(公財)日本修学旅行協会事務局長 高野満博

(敬称略)

日本修学旅行協会から昨年末に発行された教育旅行年報2021の分析を基礎にしなが、全国的な動向を視野に入れる日修協のお立場からの実態報告と予測、提言等をいただきます。

- ①コロナ禍により教育旅行マーケットはこの2年間でどう変化してきたのか。学校はどう対応してきたか。現場の声は。—教育旅行年報2021から—
- ②方面替え、近県指向、時季変更等の変化はコロナ終息後はコロナ前に復元していくのか。あるいはどう変わるのか。
- ③主体的対話的で深い学びとSDGs要素の体験プログラムの可能性をどう見るか。
- ④訪日教育旅行の今後の動向
- ⑤教育旅行受入地域へのメッセージ

III 基調提案

11:00~11:50

テーマ 『ほんもの体験は地域を変え、日本を変える —コロナ禍を超えて—』

提案者：体験教育企画代表 藤澤安良

(敬称略)

休憩70分

IV 課題別分科会

13:00~17:50

第1セッション 13:00~14:30

(敬称略)

テーマ 「SDGs教育プログラムの実践と効果、そしてファシリテーター育成」

コーディネーター：藤澤安良(体験教育企画 代表)
パネリスト：加蘭明宏(沖縄体験ニライカナイ 代表)
パネリスト：東 泰照((一社)幡多広域観光協議会 総務部長)
パネリスト：竹下明伸((一社)八幡浜市ふるさと観光公社)
パネリスト：高橋 充((株)南信州観光公社 代表取締役)
パネリスト：小倉遼大(南信州中島農園 ファシリテーター)

SDGsは国連の定めた2030年までの地球的な「持続可能な開発目標」です。藤澤代表によれば、「新しい価値創造」とも定義しています。体験型観光振興はそのための実践論とも考えられます。教育旅行マーケットではこの1~2年で新たに新学習指導要領の「主体的で対話的な深い学び」に加えて、SDGs教育プログラムが求められるようになってきました。南信州では山村集落の持続可能性や農業後継者問題、環境課題等の地域課題にコミットする形で新しいプログラム開発を進めつつ、学習支援者としてのファシリテーターの養成講座にも着手し、学校への提供も始めました。既にいくつかのネットワーク会員組織でも開始されており、その理念を確立して具体的な教育プログラムを開発し、担う人材育成を進めていかなければなりません。各地の実践に加えファシリテーターとしてプログラム提供に当たる若手農業者を交えて議論を深め、各地区の具体的な実践に繋げる一助とします。また、SDGsは今後、観光地選択やツアー選択の大きな理由の一つになっていくものと考えられます。それはワールドワイドな、或いは観光地域づくりの視点や、企業経営(ESG)にも不可欠なものとなりそうです。さらに2030以降、ポストSDGsの価値観と取組も視野に入れなければならないでしょう。

休憩10分

第2セッション 14:40~16:10

(敬称略)

テーマ 「withコロナ、ポストコロナの農林漁家泊の戦略と後継者づくり」

コーディネーター：藤澤安良(体験教育企画 代表)
パネリスト：下館満吉((一社)久慈市ふるさと体験学習協会 会長)
パネリスト：福本修一((一社)近江日野交流ネットワーク 事務局長)
パネリスト：松浦英人((一社)そらの郷 課長)
パネリスト：山下興範((一社)まつうら党交流公社 副理事長)
パネリスト：俵 慎一((一社)日本食文化観光推進機構 専務理事)

南信州では平成10年に中学生の農泊を開始してから25年が経過しようとしています。この間、全国ほんもの体験ネットワーク各組織の実践と奮闘でグリーン・ツーリズムはこうすれば上手く展開できるという方法論を国内にお示しすることはできたと思います。しかし、南信州地域では受入れ農家数は減少しており、農家の世代交代に対応してこの事業の意味を再確認する必要性が生まれています。また、コロナ禍を経た民泊対応策の浸透に加え、農家・漁家の受入れモチベーションの維持も課題となっています。このセッションでは、コロナで変わる民泊の実態やあり方に加え、農泊・漁泊に新たに付加していく価値についても議論を深めたいと考えます。それは食育、地産地消の仕組みづくり、食文化による観光地域づくりにも通じるものです。その総合力が後継者づくりにもつながるものとなるでしょう。第1セッションの議論も踏まえ、各地の実践事例や食文化観光の知見も加えて議論を深めます。

休憩10分

第3セッション 16:20~17:50

(敬称略)

テーマ 「これからのインバウンド誘致を考える」

コーディネーター：藤澤安良(体験教育企画 代表)
パネリスト：谷口紀泰(Airbnb Japan(株)ホームシェアリング事業統括本部 事業開発部長)
パネリスト：渡辺謙克(環境省東北地方環境事務所宮古自然保護官事務所 国立公園利用企画官)
パネリスト：辻野明子((一社)大和飛鳥ニューツーリズム)
パネリスト：服部美樹子((一社)地域商社あきおた・マネージャー)
パネリスト：大蔵喜福(登山家・(一社)南信州山岳文化伝統の会 顧問)
パネリスト：大嶋隆太郎((株)まちノペイト スノーモンキーブランド マーケティング担当)

インバウンドについては、体験プログラムをFIT(外国人個人旅行)等に対応させて、web上で予約・受入れ・精算まで行うためのシステム構築には課題もありそうです。ほんもの体験に取り組む地域の強みである体験プログラムやアクティビティをポストコロナのインバウンド市場にどう対応させていくのか、コーディネート実践側に加え、山岳・国立公園等の自然資源の活用とガイダンス面からの考察、既に多くの海外顧客を持つランドオペレーターから見た全国ほんもの体験ネットワーク組織との連携方法、世界的な民泊OTA(オンライン・イントラベル・エージェント)組織から見た農泊・漁泊や体験プログラムの提供体制、地域内連携への提言等、幅広く議論を進めます。

V 閉会

17:50~18:00

第16回フォーラムのまとめと到達点の確認

(敬称略)

今後の活動の力点

体験教育企画代表 藤澤安良



食の安全性と畜産に関するワークショップ



伝統芸能(人形浄瑠璃)をどう伝承するか



循環型農業から考える地域振興



圃場から農業の多角経営を考える